

令和6年度 多摩市立瓜生小学校 学校評価書

学校教育目標	
人権尊重を基調とし、主体的に学び、人間性豊かで、心身ともに健康でたくましく生きる児童の育成 すすんで学ぶ子(問題解決力の育成) 思いやりのある子(人間関係調整力の育成) きたえる子(実践力の育成)	
目指す学校像(学校経営ビジョン)	
ともに励み、ともに伸びることのできる「学ぶ喜びのある学校」	
目指す子供像	目指す教師像
<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学んだ知識を生きる知恵として活用する児童 ・優しさや寛容の心を持ち、互いの人権を尊重する児童 ・健康な心と体を持ち、粘り強くやり遂げる児童 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の小さな成長を認め励ますことのできる教師 ・分かる喜び、考える喜びのある授業を実践する教師 ・人とかかわる喜びのある活動を創造する教師 ・粘り強く児童に寄り添い、励ますことのできる教師

Ⅰ 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1) 確かな学力の育成

重点目標	・学んだ知識を生きる知恵として主体的に活用し、問題解決に取り組む児童の育成 ・問題解決力の育成			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員 の意見
SDGsを踏まえたESDの充実を図り「めあてと見通し」「自力解決と学び合い」「まとめと振り返り」等の学習過程を重視し、問題解決の流れを明確にした学習活動を展開する。(80%)	3	児童が積極的に自らの考えを発表し合い、響き合う学習を実践している。自分事として考えている6年生のESDが、学校全体に広がる活動となることを期待している。	B 60%	・非常に意欲的に学び、ワクワクしながら探究している姿が素晴らしい。子どもたちの疑問や探究心にとことん寄り添ってくれる授業のおかげだと感じる。 ・自分の毎日の生活の中でどのようにESDを実践することができるか、他学年への発表などがあると学校全体でもっと取り組んでいけるのではと思う。 ・地域との協働は、様々な人の様々な話を聞くことで子どもたちに新たな視点を提供し、多面的に物事を考えるよい機会になったと思う。 ・少人数かつ高学年での教科担任制が、きめ細やかで行き届いた学びにつながっていると考える。
個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善に取り組み、児童の基礎的な知識・技能と探究する力を育成する。(80%)	4	全国調査結果では、個別最適な学びについては、肯定的回答が9割で、A回答は2割であった。協働的な学びについては、肯定的回答が9割で、A回答は5割であった。さらなる授業改善に努めていく。	A 70%	
家庭や地域の教育力、各関係団体、大学等と連携して、様々な体験活動を取り入れ、学習活動の一層の充実を図ることにより、児童の興味・関心や学びに向かう力を高める。(80%)	4	主権者教育や租税教室、薬物乱用防止教室等の出前授業、稲の栽培等の体験学習、工場や市場、公園や施設等への校外学習を数多く取り入れることにより、子供たちの興味・関心を高めることができています。	A 80%	・様々な出前授業を行い、児童それぞれの得意分野も伸ばせている。
評価のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な教科指導の実現が図られ、児童の学習への意欲の高まりが感じられた。 ・教科担任制推進委員会において、授業規律や授業力の向上を意識した授業改善に関して共通理解が図られ、実践を進める中で、成果や課題について検討できた。 ・自らの考えを発表し合い、響き合う学習が実践できた。 ・6年生が地域イベントで、自分たちが取り組んでいるESDに関する活動について発表し、自分たちの思いを地域に広めることができた。 ・1単位時間のねらいを明確にして、学習のめあてを板書等で分かりやすく児童に明示し、授業の終末ではねらいに基づく振り返りの場面の工夫・改善を図ることで、分かる授業の実践に努めた。 ・保護者アンケートでは、基礎的な学力定着のための教育に関して、アンケートに回答があった95%の保護者より肯定的な評価をもらった。 			

(2) 豊かな心の育成

重点目標	・優しさや寛容の心を持ち、互いの人権を尊重する児童の育成 ・人間関係調整力の育成			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員 の意見
人として尊重され、互いを大切にしよう豊かな人間関係を構築するために、人権教育の一層の充実を図るとともに、不登校対策の徹底、いじめの未然防止、早期発見・早期対応、解決に向けた組織的対応力を強化する。(80%)	4	いじめ対策委員会において共通理解を深め、アンケートにより児童の声なき声に耳を傾けている。新たな居場所として学童と連携した「さぼうとるうむ」を設置し、心に寄り添う肯定的な関わりと学校の居心地感を向上させている。	A 90%	・迅速な「さぼうとるうむ」の設置は評価に値する。ただし、その運営・利用状況などは定期的に検証・見直し、時には児童自身の声も取り入れて、常に安心・安全な場所であって欲しい。 ・他者を思いやる気持ちが大切との認識が、学年が上がる毎に強くなっている。 ・縦割り班活動はぜひ続けてもらいたい。地域との交流の中で、自分たちが「支えられている」だけではなく自分たちも「支える」側との認識をより深めてもらいたい。 ・学校の中だけでない地域とのつながりてたくさん学んでいる。
体験学習や道徳教育による心の教育を充実させ、児童の情緒の安定を図り、健全育成に努める。(80%)	4	全国調査結果では、「生活の中で幸せな気持ちになる」「地域や社会をよくしたい」共に肯定的回答は9割前後であり、今後も思いやりの心を大切にできるようにさせていく。	A 80%	
学級経営の充実や異年齢児童との活動、地域との交流を通して、他者を理解し尊重する心を育むとともに、温かい人間関係を構築し、誰もが安心して過ごせる学校をつくる。(80%)	4	全国調査結果では、「人が困っているときに助ける」「人の役に立つ人間になりたい」共に肯定的回答は100%であり、今後もすべての子供が安心してできる学校をつくっていく。	A 80%	
評価のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士の温かい人間関係づくりに関しては、アンケートに回答があった86%の保護者から肯定的な評価を得ている。 ・年間目標である「元気のよい挨拶」や「心を込めた言葉遣い」に関しては、アンケートに回答があった82%の保護者より肯定的な評価を得ている。 ・いじめに関しては、年間5回のアンケート調査を実施して、子供たちの声を聞いている。解決困難ないじめは発生していない。アンケートに回答があった90%の保護者が、児童が楽しく学校に通えていると考えている。 			

(3) 健やかな体の育成

重点目標	・健康な心と体を持ち、挑戦し、やり遂げる児童の育成 ・実践力の育成			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員 の意見
体育授業の充実、一校一取組等を通して、体力向上に取り組むとともに、運動に親しみ、粘り強く取り組む態度を養う。(80%)	3	体力調査等の結果を効果的に活用した体育科授業の改善を図り、前年度の自分の記録を更新できるような個人目標値を設定させた。	B 50%	・苦手な課題でも諦めずに努力している様子がみられる。 ・体力の維持・向上は、運動、栄養、休養を基本とし、それぞれに目標を設定し、達成感を醸成することが必要である。
児童集会や休み時間等を効果的に活用し、体育的活動、異学年交流を生かした遠足や遊び等に取組み、体を動かす楽しさを味わわせるとともに運動習慣の定着を図る。(80%)	3	縄跳び週間やペースランニング週間、わくわくチャレンジタイム等を実施するに当たって、子供たちには目当てを立てさせ、楽しく運動ができるような取組みを行っている。	B 70%	・独自のイベントや集会が定着して、子どもたちの楽しみにもなり、先の見通しや目標を見付けられている。
食育を推進し、給食や家庭での食生活を振り返り、健康に生活する態度を育成する。(80%)	4	栄養教諭を積極的に活用して食育の推進を図り、自分の健康を考え、望ましい食習慣を身に付けさせている。	A 60%	・育ち盛りの児童には、栄養のバランスを考慮することが必要である。
評価のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・個人内記録を付けさせるなど具体的な体力向上策を設定することで、運動を楽しみながら行わせることができ、全校で取り組むことによって、とても充実している。 ・食育に関しては、今後も系統的な指導を確立していく。 			

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	・地域を愛し、地域社会の一員としての自覚ある児童の育成 ・コミュニティ・スクールとして、家庭や地域との連携 ・学校の教育活動や地域行事における交流を通して、開かれた学校づくりの推進			
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
地域の人材や自然環境等を生かした教育を推進し、地域を大切に思う心を培うとともに、地域の中で互いに協力し合って生活し、地域社会に参画する態度を養う。(80%)	4	地域学校協働活動推進員の尽力により、地域の人材を積極的に活用できた。今後も、校外での学習を推進し、地域を知ることから、地域に関する学びの充実を図っていく。	A 70%	・花壇の整備や校内の木々の剪定など、地域の方に「してもらう」だけでなく「一緒に取り組む」活動へと展開していければ、なお充実した学びになると考える。
保護者や地域社会、近隣の幼稚園・保育園や中学校等、地域と連携した学校づくりを推進する。(80%)	3	小中連携活動として、中学校の授業を参観したり、共通の課題についての検討会を行ったりしている。	B 50%	・就学前の幼児との交流で思いやりや自分の立場を知り、これから行く中学校での様子を知ること、不安が少し減少すると思う。
他者と連携・協働及び合意形成しながら、社会の一員として地域の課題解決に主体的に関わることができる児童を育成する。(80%)	4	避難所訓練や夢灯り、どんど焼き、地域運動会、子供会行事等の地域行事、ボランティア活動に主体的に参加する児童が多くみられている。	A 90%	・「してもらう」だけではなく自発的に参加・協力する姿勢がより増えればと思う。
評価のまとめ	・年間を通じて、地域行事やPTA行事が頻繁に開催されているため、様々な行事に対して、意欲的に参加している児童が多くみられた。 ・地域の方々との顔の見える関係をさらに築いていくためにも、学校運営協議会を核として、今後も効率化を図っていく。 ・地域学校協働活動推進員の多大なる尽力により、児童が地域に関心を持ち、地域から学ぶことが増え、温かな交流活動も実践できている。 ・地域防災訓練等を通して、地域の一員として積極的に活躍させていく。			

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教科担任制等推進校として、教師の専門性と授業の質の向上を図るとともに、学習内容の確実な定着を図り、問題解決力を向上させていく。 ・授業改善プランをベースとして、めあてに対して振り返る活動を通して、「何を学んだか、何ができるようになったか」が分かる授業、児童が学びの価値を実感できる授業を実践していく。 ・SDGsを踏まえたESDの視点を意識し、各教科等との関連性を考えた授業改善に取り組み、児童が積極的に自らの考えを発表し合い、響き合う学習を実践していく。 ・自分と他者の大切さを認め合い、人のために行動できる力を育成していく。 ・学級の安定化を促進し、確かな児童理解に基づき、一人一人の児童が安心できる学級づくりを行う。 ・基礎体力の向上を図り、自らすすんで健康の増進と体力・日常的な体力向上策を通して、健康な身体と防衛体力の向上及び身体を動かすことが好きな児童を育成していく。 ・コミュニティ・スクールとして、地域社会全体との関わりの中で保護者・地域・学校が一体となって望ましい教育活動について共に考え、成就感や連帯感を味わわせる教育活動を実践していく。

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

以上のとおり報告いたします。

令和7年3月3日

多摩市立瓜生小学校 校長 池田 泰章 公印

令和6年度 学校評価書



多摩市立瓜生小学校